No.23 健全な上下水道事業 (建設課)

令和2年度にめざした姿(目的)

有収率(注1)の向上による水道水の安定供給と施設維持管理の安定化を図るとともに、汚水処理施設の計画的な修繕による延命化を図ります。

(注1) 水道メーターが回り料金徴収の対象となった水量を水道本管へ送り込んだ水量で割った率のこと。低いと漏水等が多いため収益につながらない。全国平均は平成28年度で約93%

令和2年度にめざした成果

- ①水道管の老朽により漏水している箇所を計画的に調査し、有収率(注1)の維持を図ります。
- ②上水道のアセットマネジメント(長寿命化計画)や経営戦略により、老朽化した水道施設の更新計画を効果的に効率的に進めます。
- ③汚水処理のストックマネジメント計画(更新計画)の策定や事業計画の見直しを行い、修繕費用の平準化と軽減につなげます。

(注1) 水道メーターが回り料金徴収の対象となった水量を水道本管へ送り込んだ水量で割った率のこと。低いと漏水等が多いため収益につながらない。全国平均は平成28年度で約93%

令和2年度にめざした活動(主な取組み)

- ①②上水道の有収率…現状維持(R元実績)87.9%
- ③汚水処理の汚泥減容率(注2)…現状維持
(R元実績)西伯地区2処理場27%、会見浄化センター26%、公共下水処理場28%
- 汚水処理水の水質指標BOD(注3)…基準値維持
(基準値)公共下水道15mg/l以下、農業集落排水20mg/l以下
(R元実績)公共下水道12.5mg/l、農業集落排水3.3mg/l

(注2) 下水処理場から発生する汚泥を微生物等の技術により発生量を抑えた率のこと。30%程度が目標とされている。

(注3) 水の汚れを微生物が分解する時に使う酸素の量のこと、この量が多いと汚れがひどい。

令和2年度の成果

- ①②水道本管の漏水調査による幹線管路の漏水修理、更新計画による老朽管路の更新を実施し、有収率は約88%程度の見込みで、ほぼ現状維持です。
- ③汚水処理のストックマネジメント計画(更新計画)の策定が完了する予定です。
- ③適切に維持管理を継続し、汚泥減容率は現状維持、水質指標は基準値以内が見込まれています。

令和2年度の問題

- ①②上水道の新たな施設整備は、投資と効果の関係上、町のゾーニング計画との連携が必要となっています。

令和3年度以降の方策

(1) 達成できた事項をさらに伸ばす方策

- ①②上水道施設は、引き続き漏水調査による幹線管路の修理と、老朽管路の更新工事を計画的に実施し、弱点を減らすことで災害時にも安定的に水道水を供給できる水道施設を目指します。

(2) 解決すべき問題への方策

- ①②上水道の新たな施設整備は、町のゾーニング計画と連携して取り組みます。

(3) 新たに取組む方策

- ③汚水処理のストックマネジメント計画(更新計画)により、修繕費用の平準化と軽減を図ります。